

8 リテラシー教育の実績

8.1 リテラシー教育の実施

(1) 図書館活用法※1

* 半期2単位（駿河台：春学期，生田：秋学期，和泉：2006年度より春学期・秋学期に開講，中野：2019年度より開講なし）

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	履修者数	57	50	73	67	36	66	57	49	40
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	12 (9)	14 (10)	15(11)	15(13)	15(11)	15(11)	14(10)	14(10)	14(8)
	担当講師数 ※3	13 (11)	13 (9)	14(10)	14(10)	15(12)	13(11)	13 (8)	13 (8)	14(10)
和泉図書館	履修者数	231	253	244	240	315	331	295	306	153
	開講数	4	4	4	4	4	4	4	4	2
	授業回数 ※2	52 (38)	56 (40)	60(44)	58(42)	56(40)	58(46)	56(36)	56(32)	28 (16)
	担当講師数 ※3	27 (23)	24 (22)	24(22)	29(27)	27(25)	27(25)	29(23)	27(24)	21 (19)
生田図書館	履修者数	30	36	26	36	29	27	76	36	27
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	14 (10)	14 (10)	15(10)	15(10)	15(10)	14(9)	14(6)	14(6)	14(6)
	担当講師数 ※3	10 (7)	9 (6)	9(6)	10(6)	9(6)	10(6)	12(6)	13(7)	12(6)
中野図書館	履修者数			11	10	16	32	4	9	
	開講数			1	1	1	1	1	1	
	授業回数 ※2			15 (10)	15(10)	14(10)	15(10)	14(9)	14(8)	
	担当講師数 ※3			8 (5)	8(5)	7(5)	8(5)	8	7(3)	
履修者総数		318	339	354	353	396	456	432	400	220

※1 2000年開講

※2 カッコ内の数字は職員が担当した回。ただし、教員とともに担当した回は除く。

※3 複数のキャンパスを担当した場合はそれぞれに計上。カッコ内の数字は職員。

(2) ゼミツアー *フリーツアー（すべての利用資格者対象）含む

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	回数	59	62	62	56	61	59	60	62	66
	履修者数	689	851	714	617	620	719	725	749	754
和泉図書館	回数	139	263	195	170	169	150	134	123	142
	履修者数	2,221	3,278	2,864	2,741	2,999	2,902	2,432	2,405	2,656
生田図書館	回数	28	38	25	21	18	13	23	23	20
	履修者数	163	184	167	218	211	132	261	272	237
中野図書館	回数			28	21	20	28	20	18	13
	履修者数			396	255	265	361	308	238	141

(3) 出前講義 *「図書館活用法」を除く教室授業，図書館以外施設授業など

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和泉図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	-
生田図書館	回数	8	8	8	8	10	18	18	18	12
	履修者数	294	300	286	286	422	384	405	417	311
中野図書館	回数			3	2	2	3	3	9	10
	履修者数			22	30	40	50	71	216	225

(4) 各種講習会 * 情報・文献検索講習会, DB 講習会, テーマ別講習会, グループガイダンスなど

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	回数	26	19	19	20	18	20	4	10	2
	参加者数	296	221	196	222	190	107	9	73	7
和泉図書館	回数	45	59	51	40	22	19	8	5	8
	参加者数	283	397	260	384	291	147	101	145	186
生田図書館	回数	17	22	10	23	8	1	2	13	18
	参加者数	137	71	200	197	121	7	62	320	1,026
中野図書館	回数			17	23	10	4	4	6	8
	参加者数			80	68	84	11	9	9	18

(5) オリエンテーション * 新入生, 新任教員, 三年次, 留学生など

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	回数	6	8	8	13	12	10	7	8	7
	参加者数	1,076	1,404	1,132	970	893	1,148	1,278	1,094	163
和泉図書館	回数	15	12	8	8	7	11	13	13	12
	参加者数	5,486	5,232	4,987	5,196	5,677	5,093	7,881	5,222	5,206
生田図書館	回数	4	4	4	4	6	4	4	4	4
	参加者数	1,683	1,640	1,632	1,698	1,595	1,612	1,612	1,562	1,708
中野図書館	回数			6	5	5	7	8	8	6
	参加者数			890	627	665	784	889	806	739

(6) 見学・視察 * 各種団体, 個人, 学校など

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中央図書館	回数 ※ 1	129	140	134	100	95	88	97	11	46
	参加者数	3,470	3,785	4,088	3,229	3,108	3,027	3,302	843	1,792
和泉図書館	回数 ※ 1	13	118		140	88	54	54	47	58
	参加者数	491	3,502	2,099	3,791	2,134	2,829	2,829	2,139	1,530
生田図書館	回数 ※ 1	-	1		0	3	2	2	1	1
	参加者数	312	532	232	285	2,972 ※ 2	453	453	516	293
中野図書館	回数 ※ 1			43	31	13	3	7	3	5
	参加者数			2,083	1,638	3,089	2,625	2,718	2,277	1,034

※ 1 個人での見学は含まない

※ 2 オープンキャンパスの参加者数を含む

8.2 全学共通総合講座「図書館活用法」

《春学期》

駿河台キャンパス

図書館活用法		コーディネーター	
		経営学部 長野 史麻	
駿河台	2単位 春学期	金曜日 1時限	
1 授業の概要・到達目標			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになります。(図書館リテラシー)			
2. ささまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになります。(情報リテラシー)			
3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになります。(学術リテラシー)			
4. 就職活動に役立つ企業情報を入手できるようになります。			
2 授業内容			
① 4月12日	イントロダクション (講座の概要、成績評価方法等の説明)	経営学部専任教授 長野 史麻 中央図書館事務局長 横井 淳子	
大学で学ぶためには、図書館を利用することが不可欠です。図書館の膨大な蔵書は、意欲な教養、深い見識を養ううえでも貴重なものであるといえます。初級では、まず大学図書館の役割や重要性を明らかにしたうえで、「図書館活用法」という授業科目の意義、内容、レポート提出、成績評価などについて説明します。そして後半では、中央図書館事務局長より明治大学図書館の概要を紹介いたします。			
② 4月19日	図書館フリー (図書館の概要とバックヤードフリー)	図書館職員 松並 康子・鈴木 世津子	
大学図書館の施設やサービス、資料の特徴を知り、それらの利用方法を理解することは、大学図書館の存在意義を理解することの第一歩です。この回では、前回に引き続き図書館の概要説明を行った後、実際に館内を回り理解を定着させます。さらに、普段は見ることのないバックヤードへのフリーを行い、大学図書館の業務がどのようなプロセスで行われているかを紹介いたします。			
③ 4月26日	レポート・論文の作成方法	経営学部専任教授 長野 史麻	
レポート・論文は、自分の調査・研究内容について論理的に記述し、公表し、他者の理解を得るために書かれます。大学教育ではレポート・論文の作成が重視されており、この授業ではその作成方法について説明します。また、先行研究を調べることの大切さ、著作権を意識した書き方などについても取り上げます。			
④ 5月10日	図書館と著作権	情報コミュニケーション学部専任教授 今村 哲也	
学習、研究、論文・レポートの作成においては、多くの図書や雑誌(論文)、インターネット上の情報も利用します。これらの著作権・情報の利用にあたっては、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法に沿った文獻・情報の適切な利用方法を学びます。			
⑤ 5月17日	研究と図書館	経営学部専任講師 平尾 伸洋	
研究者にとって、数多くの図書や論文、データなどを利用することは不可欠です。そこで、教員や大学院生の研究活動に図書館がどのように関わっているのか、特に論文を作成するさいに図書館を活用することがいかに重要であるかについて説明します。			
⑥ 5月24日	書物の楽しみ	経営学部専任教授 福岡 正博	
IT時代にあっても、書物の楽しみ方については、皆さんそれぞれに意見があると思います。書物を楽しむ読書については、古今東西様々な名目もあります。名言について鑑賞してみましょ。それから皆さんの様々な意見も交換してみましょ。			
⑦ 5月31日	文獻・情報の探し方 (1) 文獻情報概論、図書館の入手と利用【演習】	図書館職員 杉谷 美和	
図書や雑誌など資料の形態にはいくつ種類があり、それぞれ役割や特徴があります。学術情報や一般図書の流通過程を理解し、各資料をよりよく活用できるよう解説します。また、図書の検索とその入手の仕方を習得します。なお、この講義の受講前に、図書館OPACの基礎的な検索方法を各自学習しておいてください。			
⑧ 6月7日	文獻・情報の探し方 (2) 雑誌・論文情報の入手と利用【演習】	図書館職員 小野 聡	
研究成果は最初に雑誌で公開されることが多く、最新の知見を取り入れるためには、雑誌論文の活用が不可欠です。本講義では論文データベースの検索、参考文献リストからの論文探索、入手した論文で参考文献リストを作成する等の演習を通じて、雑誌論文を効率的に探し、入手する方法を学びます。			
⑨ 6月14日	文獻・情報の探し方 (3) レファレンス情報と新聞記事・企業情報の入手と利用【演習】	図書館職員 久松 薫子	
レファレンス資料にはどのようなものがあり、どのように活用できるか解説します。また新聞と新聞記事の特徴を知り、どのようなことが調べられるのか新聞を見ながら理解します。そして、これらの資料を使った企業情報の探し方を演習を通して習得し、就職活動に役立てられるようになります。			

和泉キャンパス

図書館活用法		コーディネーター	
		文学部 三浦 太郎	
和泉	2単位 春学期	水曜日 5時限	
1 授業の概要・到達目標			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる (図書館リテラシー) 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる (情報リテラシー) 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる (学術リテラシー)			
2 授業内容			
① 4月10日	イントロダクション (講座の概要、成績評価方法等の説明)	文学部専任教授 三浦 太郎 和泉図書館事務局長 永井 順子	
本講座は、大学での学習に不可欠な図書館活用に必要知識とスキルの習得を目指すものです。書誌・索引・辞書・事典などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻 (図書や雑誌記事・論文) をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。			
② 4月17日	図書館の機能と情報資源	文学部専任教授 三浦 太郎	
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供するにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探索するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。			
③ 4月24日	レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用	文学部専任教授 三浦 太郎	
レポート (論文) の作成過程は、課題の設定と焦点化し始める、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するために必要な百科事典や専門事典の活用、および書誌・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領 (引用文獻の記述方法を含む) についても詳しく取り上げます。			
④ 5月8日	図書館サービスと著作権	文学部専任教授 吉柳 英治	
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に照して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。			
⑤ 5月15日	国書の歴史と図書館	文学部専任教授 三浦 太郎	
国書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな役割や機能があります。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館 (文庫) を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。			
⑥ 5月22日	文獻・情報の探し方 (1) 図書①【演習】	図書館職員 松並 康子・森嶋 朝子	
明治大学図書館蔵書検索システム (Web-OPAC) の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようになります。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑦ 5月29日	文獻・情報の探し方 (2) 図書②【演習】	図書館職員 松並 康子・森嶋 朝子	
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵している資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑧ 6月5日	文獻・情報の探し方 (3) 雑誌論文①【演習】	図書館職員 小倉 さなえ・平田 さくら	
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌検索ページ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号配置、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率よく雑誌を探し出し利用できるようになります。			
⑨ 6月12日	文獻・情報の探し方 (4) 雑誌論文②【演習】	図書館職員 小倉 さなえ・平田 さくら	
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すことはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPAC上は別の検索ツールを使用する必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。			

⑨ 6月21日	文獻・情報の探し方 (4) (人社会データベースの紹介と電子情報の現在1)【演習】	図書館職員 西脇 亜由子
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を受えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第11講と連続する内容になっています。		
⑪ 6月28日	文獻・情報の探し方 (5) (人社会データベースの紹介と電子情報の現在2)【演習】	図書館職員 久松 薫子
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を受えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第10講と連続する内容になっています。		
⑫ 7月5日	文獻・情報と図書館 (1) 図書館における情報のあり方 (分類と書誌情報、選考基準、情報組織化)【演習】	図書館職員 柴尾 晋
選考からデータ入力、配架までの一連の流れを紹介し、さらに、図書館システムとOPACとの関係を中心に、大学図書館における情報組織化の仕組みを理解し、皆さんの今後の図書館利用に役立つよう解説します。また、資料の分類法についても紹介します。		
⑬ 7月12日	文獻・情報と図書館 (2) (最新トピック)【演習】	図書館職員 矢野 忠子
図書館や学術情報をめぐる現在の状況・問題と課題を知り、問題の背景を理解し、今後の学術情報のあり方について考えます。最新動向を踏まえたテーマを取り上げる予定です。		
⑭ 7月19日	まとめ (文獻・情報の入手からレポート・論文の作成へ) と総合テスト a: テスト、b: まとめ	経営学部専任教授 長野 史麻 図書館職員 西脇 亜由子・平田 さくら
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意 講義 (既読) と演習を組み合わせ、知識の習得だけではなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館等の職員が分かれて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND 利用講習会を受講済みであることを必須とします。		
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認 (本を読む、実際にツールに触れてみるなど) をしてください。 また、授業後は、講義内容、配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。		
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書 酒井聡明著「これからレポート・卒論を書く者のために」第2版 (2017、共立出版、ISBN9784320005863) 佐藤肇博著「アカデミック・スキルズ: 大学のための情報技術入門」第2版 (2012、愛知学院大学出版会、ISBN9784766419803) 高橋裕樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版 (2014、京都府立大学出版会、ISBN9784804132260) 藤田節子著「図書館活用術: 情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版 (2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432) 毛利和弘著「文獻調査法: 調査・レポート・論文作成必携: 情報リテラシー読本」第7版 (2016、毛利和弘、ISBN9784820416012)		
7 成績評価の方法 ①平常点 (50%)、②総合テスト (25%)、③期末レポート (25%) を総合的に判断します。 また、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。		
8 その他		

初年次教育リベラルアーツ講座

⑨ 6月19日	文獻・情報の探し方 (5) レファレンス資料【演習】	図書館職員 土田 大輔・寺土 真理
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べのをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この目では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べ方、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。		
⑪ 6月26日	文獻・情報の探し方 (6) 新聞【演習】	図書館職員 藤田 賢一・久保木 和義
新聞は印刷物のはかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における空気やどのようなものもつかい知ることが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。		
⑫ 7月3日	文獻・情報の探し方 (7) インターネット【演習】	図書館職員 角 祐二郎・緒方 智弘
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンに活用して、あるテーマを調査するに必要文獻を通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。		
⑬ 7月10日	文獻・情報の探し方 (8) (1) ~ (7) まとめ【演習】	図書館職員 関口 剛枝・畑野 麻子
これまでの授業で学んだ様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用して、あるテーマを調査するに必要文獻を探求演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つ出し、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。		
⑭ 7月17日	まとめと総合テスト a: テスト、b: まとめ	文学部専任教授 三浦 太郎 図書館職員 関口 剛枝・森島 理恵
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意 講義 (既読) と演習を組み合わせ、知識の習得だけではなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館等の職員が分かれて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND 利用講習会を受講済みであることを必須とします。		
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認 (本を読む、実際にツールに触れてみるなど) をしてください。 また、授業後は、講義内容、配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。		
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書 酒井聡明著「これからレポート・卒論を書く者のために」第2版 (2017、共立出版、ISBN9784320005863) 佐藤肇博著「アカデミック・スキルズ: 大学のための情報技術入門」第2版 (2012、愛知学院大学出版会、ISBN9784766419803) 高橋裕樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版 (2014、京都府立大学出版会、ISBN9784804132260) 藤田節子著「図書館活用術: 情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版 (2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432) 毛利和弘著「文獻調査法: 調査・レポート・論文作成必携: 情報リテラシー読本」第7版 (2016、毛利和弘、ISBN9784820416012)		
7 成績評価の方法 ①平常点 (50%)、②総合テスト (25%)、③期末レポート (25%) を総合的に判断します。 また、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。		
8 その他		

初年次教育リベラルアーツ講座

《秋学期》
和泉キャンパス

図書館活用法		コーディネーター
		文学部 青柳 英治
和泉	2単位 秋学期	水曜日 5時限
1 授業の概要・到達目標 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2.さまざまな情報、文脈、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文脈、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 9月25日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明）		文学部専任教授 青柳 英治 和泉図書館事務長 永井 順子
本講義は、大学での学習に不可欠な図書館活用に必要知識とスキルの習得を目指す。書誌・索引、辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文献の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文献（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。		
② 10月2日 図書館の機能と情報資源		文学部専任教授 青柳 英治
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この辺では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文献を探索するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。		
③ 10月9日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用		文学部専任教授 青柳 英治
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するために必要な百科事典や専門事典の活用、および書誌・索引、目録を利用した専門図書や雑誌記事（論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文献の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。		
④ 10月16日 図書館サービスと著作権		文学部専任教授 青柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文献を引用するルールの理解も目指します。		
⑤ 10月23日 国書の歴史と図書館		文学部専任教授 三浦 太郎
国書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在の姿に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな姿がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。		
⑥ 10月30日 文獻・情報の探し方（1） 図書①【演習】		図書館職員 吉田 千卓・杉谷 美和
明治大学図書館蔵書検索システム（WebOPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにしましょう。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑦ 11月13日 文獻・情報の探し方（2） 図書②【演習】		図書館職員 吉田 千卓・杉谷 美和
前回の内容をまよえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑧ 11月20日 文獻・情報の探し方（3） 雑誌論文①【演習】		図書館職員 小野 聡・飯塚 貴子
図書・雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号や通称、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率よく雑誌を探し出して利用できるようになります。		
⑨ 11月27日 文獻・情報の探し方（4） 雑誌論文②【演習】		図書館職員 小野 聡・飯塚 貴子
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すとはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。		

生田キャンパス

図書館活用法		コーディネーター
		理工学部 菅 啓次郎
生田	2単位 秋学期	金曜日 4時限
1 授業の概要・到達目標 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2.さまざまな情報、文脈、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文脈、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 9月20日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待		理工学部専任教授 菅 啓次郎 生田図書館事務長 森盛 達也
教育・研究支援機関としての図書館は、大学の施設の中で最も複雑で多面的な機能を持っています。第1回目は本講義の概要、成績評価方法に関する説明等に加え、「有意義な大学生活を過ごすための上手な図書館の利用方法」についてもお話しします。		
② 9月27日 文獻・情報の探し方（1） 図書【演習】		図書館職員 辻 薫
明治大学図書館蔵書検索システム（WebOPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにしましょう。また、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて、具体的な説明・演習を行います。		
③ 10月4日 レポート・論文の書き方		理工学部専任教授 菅 啓次郎
レポートや論文を作成する際には、論者が独り善がりにならないよう先行研究を参照する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにレポートや論文の中に取り入れ、表記するのがよいかということについてもお話しします。先行研究の趣旨を正しく理解し、適切な風潮において引用すること、参照箇所を明示しておくこと等が大切です。		
④ 10月11日 本と教養1		理工学部専任教授 清岡 智比古
本と教養1の担当者はフランス文学、映画および都市文化の研究者。フランス映画に描かれる都市を、特に移民問題、宗教的対立や地域差といった具体的な側面から論じてきた。映画を読み解くには、その産を産する社会、その産を産する文化、その産を産する時代を知る必要がある。		
⑤ 10月18日 文獻・情報の探し方（2） 雑誌論文①【演習】		図書館職員 小林 純一
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号や通称、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率よく雑誌を探し出して利用できるようになります。		
⑥ 10月25日 文獻・情報の探し方（3） 雑誌論文②【演習】		図書館職員 小林 純一
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すとはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。		
⑦ 11月8日 本と教養2		理工学部専任教授 渡戸岡 景太
本と教養2の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。小説家モリス・ヴィンチェンを専門とするのみならず、広くメディアの歴史やデザインに関心をもち、自作の本作を制作している。教養のかたちをとること、モリスとの位相を見つめながら、書物と文化との関係性を再考する。		
⑧ 11月15日 文獻・情報の探し方（4） レファレンス資料【演習】		図書館職員 寺土 真理
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この辺では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文脈について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報入手する方法を学びます。		

⑨ 12月4日 文獻・情報の探し方（5） レファレンス資料【演習】		図書館職員 矢野 恵子・土田 大輔
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この辺では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文脈について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報入手する方法を学びます。		
⑩ 12月11日 文獻・情報の探し方（6） 新聞【演習】		図書館職員 久保木 和義・藤田 賢一
新聞は印刷物のはかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせれば事例や事件を調べただけでなく、世論などその時代における「空気」のようなものもつかい知ることが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。		
⑪ 12月18日 文獻・情報の探し方（7） インターネット【演習】		図書館職員 角 祐二郎・緒方 智弘
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。		
⑫ 1月8日 文獻・情報の探し方（8） （1）～（7）まとめ【演習】		図書館職員 畑野 麻子・桑原 理恵
これまでの授業で学んできた様々な文献・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用して、あるテーマを調査するのに必要な文献を探す学習を行います。日々の学習や研究に役立つ文献検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つめ出し、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。		
⑬ 1月15日 まとめと総合テスト a：テスト、b：まとめ		文学部専任教授 青柳 英治 図書館職員 山口 剛枝・桑原 理恵
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文献・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意 講義（概論）と演習を組み合わせ、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館等の職員が分けて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。		
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をしてきてください。また、授業後は、講義内容、配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。		
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書 高橋伸吾「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN9784320005983） 佐藤昌編著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋伸吾「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都府立大学情報学研究会、ISBN9784820413226） 森田節子「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）		
7 成績評価の方法 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断します。 また、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。		
8 その他		

⑨ 11月22日 本と教養3		理工学部専任教授 倉石 信乃
ヒトは複雑な知識をまとめる世界を記述するのに、もっぱら書物と図像に頼ってきた。それらをもっともコンパクトかつポータブルなものでパッケージしたものが、本だ。本こそが教養の基礎であり、知的探求の最良の道具であることは、電子情報爆発の時代になっても変わらない。シラバス「本と教養」では、人文系分野の教員たちが、本との出会いとつきあいを半信にします。本と教養3では美術史・写真史の研究者が、広く美術史と現代との接点を論じつつ、興味深い本を紹介する。		
⑩ 11月29日 文獻・情報の探し方（5） 専門情報・新聞【演習】		図書館職員 小林 純一
自然科学分野においての「文献・情報」には、図書、雑誌論文の他にも、活用すべき専門資料があります。例えば、特許や規格などがそれに当たります。これらの自然科学分野の専門資料について、それぞれの特徴、探索・入手方法を学びます。またこの授業では演習を行い、新聞を使いこなす技術が身につくよう練習します。		
⑪ 12月6日 本と教養4		理工学部専任教授 飯田 崇
本と教養4の担当者は哲学者、環境人文学者、民族研究などに、生活の中に埋めこまれた考え方、感じ方、人とのつながり、人土地や風土の関わりなどを、現地調査をつづけてきた。ここでは環境人文学的思考を念頭に置き、現代の教養がめざすべき方向をさぐる。		
⑫ 12月13日 図書館と著作権～きちんと論文・レポートを書くために～		文学部専任教授 青柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文献を引用するルールの理解も目指します。		
⑬ 12月20日 文獻・情報の探し方（6） インターネット【演習】		図書館職員 倉本 信一
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。		
⑭ 1月10日 まとめと総合テスト a：テスト、b：まとめ		理工学部専任教授 菅 啓次郎 図書館職員 倉本 信一・荒井 健
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文献・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意 講義（概論）と演習を組み合わせ、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回のテーマを、教員と図書館等の職員が分けて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。		
4 準備学習の内容 準備として、各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した確認（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をしてきてください。また、授業後は、講義内容、配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。		
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書 高橋伸吾「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN9784320005983） 佐藤昌編著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋伸吾「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都府立大学情報学研究会、ISBN9784820413226） 森田節子「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）		
7 成績評価の方法 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断します。 また、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。		
8 その他		